

アジサイの葉の病斑

アジサイの葉に褐色～赤褐色の病斑を生じる病害は、褐斑病、炭疽病、斑点病、葉斑病、輪斑病、輪紋病などですが、どれも病徴は似かよっています。

下に示した画像は左から、輪紋病、炭疽病、斑葉病で、肉眼での判別は不可能です。

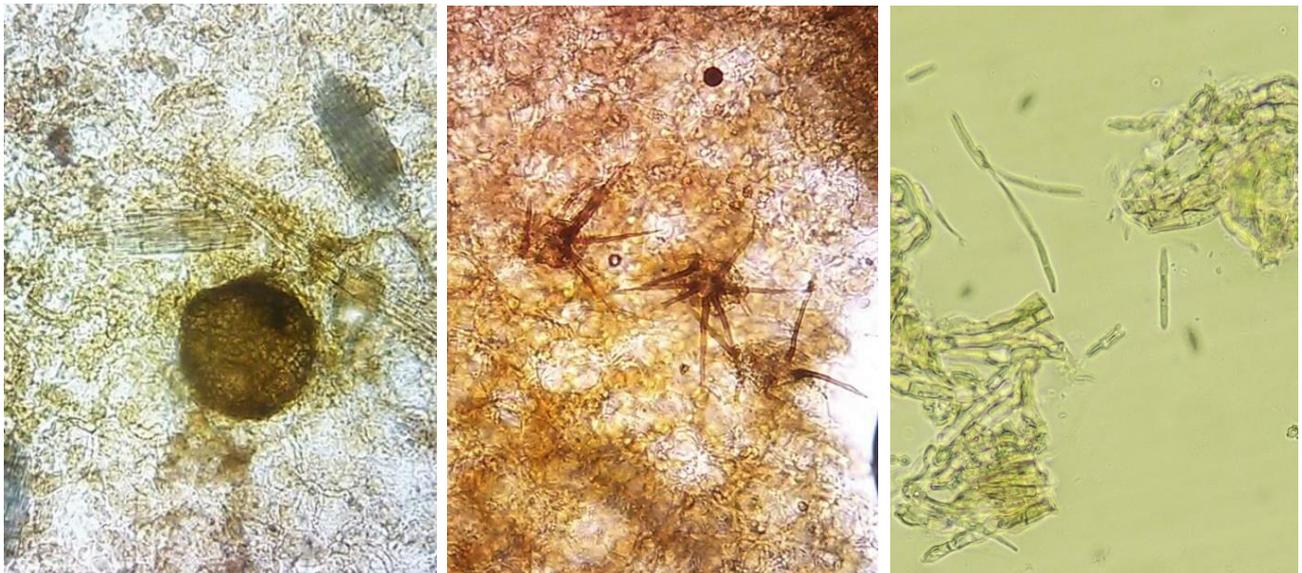


そこで顕微鏡での診断が必要になります。さいわい、どの病害も孢子形成が旺盛で、診断は容易です。

輪紋病（左）は分生子殻と呼ばれる孢子を作る壺のようなものが見られます。

炭疽病（中）は、分生子層と呼ばれる孢子を作る皿のような構造が造られ、その周囲に生じる黒褐色の剛毛が容易に観察できます。

斑葉病（右）は、ムチのようにしなった長細い分生子が見られます



アジサイの葉の病害には、顕微鏡診断に必要な病原菌の属が網羅されているので、研修素材によく使います。アジサイは身近にある植物であり、実際にアジサイの葉に斑点のあるものを採集してきてもらって診断実習を行っています。

10月24日に開催する「ふれあい農研」では、病害虫相談コーナーで顕微鏡が見られます。ご近所のアジサイの葉に斑点があれば持ってきていただき、顕微鏡診断の実際を体験してみませんか！